

2014年2月10日から27日まで、インドネシアで出稼ぎ労働とソーシャルキャピタルに関する調査を行いました。まずは、一週目の報告を致します。主な活動は、農村でのインタビュー調査と、防災に関するセミナーでした。

1日目 (2014年2月10日)

2014年2月10日朝、インドネシアのスラバヤ空港に到着。そこから移動し、お昼頃にマランに到着。ブラビジャヤ大学の方々とお会いし、昼食を頂きました。



午後は、今回の調査対象のカリパレ村に移動し、移民を送り出していない世帯にインタビューを行いました。一件目のお宅はサトウキビのプランテーションを営んでいる方で、二件目のお宅は木製の家具の製造、販売を行っている方でした。短い滞在ながらもインタビューを通して多くのことを学びました。



2日目 (2014年2月11日)

災害に関するセミナーが行われました。京都大学からは、西本さんと松島先生が発表を行いました。西本さんによる発表は、火山噴火時の政府による避難指示の原則について、松島先生による発表は、洪水の被害者の精神的ダメージの経済的評価についてでした。内容とともに、発表の仕方の勉強になりました。西本さんは緊張されていたようで、発表の後はリラックスされた表情でした。

また、調査のための会議にも出席しました。簡単な自己紹介の後、グナワンさんから調査員へ、調査の記録方法の説明が行われました。



3 日目 (2014 年 2 月 12 日)

お昼には、昼食を兼ねた会議に同行させて頂きました。和やかな雰囲気ながら、真剣な様子が伝わってきました。

その後、カリパレ村に移動しました。村では、この日からインタビュー調査が行われています。調査員のブラビジャヤ大学の学生は泊まり込みです。私と西本さんは、この日から二泊ご一緒させて頂きました。写真は反省会の様子です。



4 日目 (2014 年 2 月 13 日)

この日は、午前中に 3 件、午後に 3 件のインタビュー調査という忙しい 1 日でした。

ここで少しカリパレ村の説明をさせて頂きます。この村は、マランの郊外の農村地域にあります。村はいくつかのハムレットで構成されます。ソーシャルキャピタルは主にハムレットごとに形成されています。私たちはそれぞれのハムレットに調査に入る前に、その長にご挨拶し、案内して頂きました。また、ハムレット間にはこのような風景が広がっています。



ハムレット間の道路の舗装の状況は悪く、ガタガタでした。しかし、調査員によると、地方に行くと、これで良い方だとか。

インタビュー内容を簡単に以下にまとめます。

● 1 件目

奥さんが現在、香港でメイドとして働いている。2年契約を一度更新している。家を建てるお金のために働いている。インタビューをさせて頂いた家は建設途中だった。4年働けば十分なお金得られるので、おそらく更新しないとのこと。

● 2 件目

ご主人が韓国に6年間出稼ぎしていた。インドネシアでは売店を営んでいる。出稼ぎで得たお金は家の建築と子供の教育に用いられた。立派な家を見せてくれた。



● 3 件目

ご主人が以前マレーシアに出稼ぎしていた。職業は出稼ぎ前、出稼ぎ中、出稼ぎ後を通して農家。しかし、出稼ぎ先での賃金が低く、仕事が大変だったため、2年の契約期間が終わり次第すぐに帰国した。

● 4 件目

農家の世帯。三世代で暮らしている。インタビューに答えて下さったのは、奥さん。彼女は、やりたくないから農業には携わっていないそう。家事や子育てをしている。その横ではお母さんがトウモロコシの実をはいでいた。

この村の居心地が良く、離れたくないので、出稼ぎは考えないとのこと。

- 5 件目

4 件目の隣の世帯で、インタビューの際、一緒にトウモロコシをはいでいた方。75 歳の奥さんと 80 歳のご主人二人だけの世帯。4 件目の世帯とは家族のようなおつきあいだそう。

- 6 件目

インタビューに答えて下さったのは奥さんで、ご主人は政治家。現在の収入に満足しており、出稼ぎは考えないそう。隣のお宅にはいとこが住んでおり、困ったときには助け合えるとのこと。

インタビュー後に、調査員の学生から聞いた、「家族は近所、近所は家族」という言葉が印象的でした。



5 日目 (2014 年 2 月 14 日)

この日の主な活動は、出稼ぎ経験者の方が設立した組合への訪問でした。この組合は出稼ぎで得たお金を村の発展につなげることを目指しています。



組合のトップの方にインタビューさせて頂きました。彼によると、従来の出稼ぎ労働では、海外で得たお金を家族が日々の消費や家の建築などに使って、出稼ぎから帰った後はもとの生活に戻ることがほとんどでした。この組合では、出稼ぎで得たお金をビジネスへの投資に用いて成功した男性の経験から、同じように他の出稼ぎ労働者の帰国後の生活もより豊かにする取り組みを行っています。この会社は出稼ぎの送金を集めてビジネスをはじめめるためのお金を貸すなど、銀行のように機能しています。現在は、出稼ぎ経験者の世帯にのみ貸し付けを行っているが、将来的にはそうでない世帯も対象にしたい、とのことでした。また、出稼ぎで得たお金でビジネスをはじめめることを広める活動も行っています。インタビューさせて頂いた男性は、政府から派遣されて、香港で活動を行いました。

政府ではなく、出稼ぎ労働経験者自らがこのような取り組みを始めたところが興味深いと感じました。

